

# ブラックストーン・プライベート・クレジット・JPY ファンド (毎月分配型)

&lt;5146&gt;

追加型投信/内外/その他資産 (プライベート・クレジット)  
日経新聞掲載名: BCREDJ

第4期	2025年10月27日決算	第7期	2026年1月27日決算
第5期	2025年11月27日決算	第8期	2026年2月27日決算
第6期	2025年12月29日決算	第9期	2026年3月27日決算

## 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主に米国企業に直接融資をするプライベート・クレジット投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第9期末	基準価額	10,891円
	純資産総額	21,192百万円
第4期～第9期	騰落率	8.0%
	分配金合計	320円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

◇TKU0514620260327◇

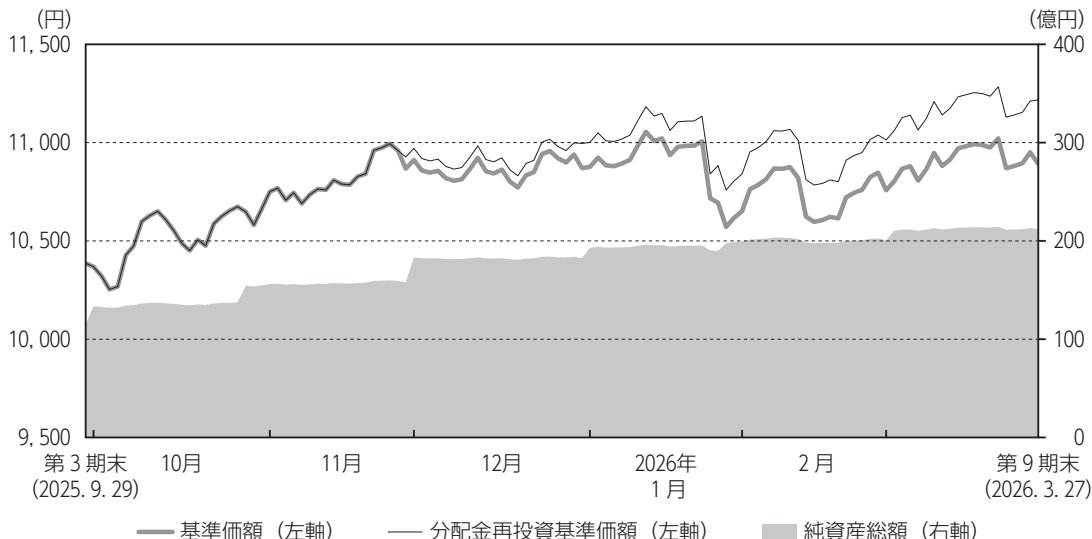
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### 基準価額・騰落率

第4期首：10,386円

第9期末：10,891円（既払分配金320円）

騰落率：8.0%（分配金再投資ベース）

#### 基準価額の主な変動要因

米ドルの対円為替相場が上昇（円安）したことや投資対象ファンドからの分配金などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第4期～第9期 (2025. 9. 30～2026. 3. 27)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	75円	0.695%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>当作成期中の平均基準価額は10,789円です。</b>
（投 信 会 社）	(26)	(0.242)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(47)	(0.431)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(2)	(0.021)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(0)	(0.000)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	75	0.699	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

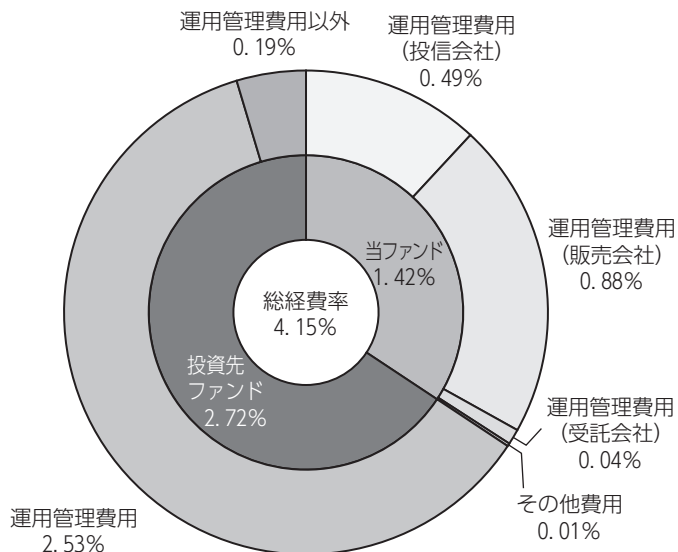
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

### ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は4.15%です。



総経費率（① + ② + ③）	4.15%
①当ファンドの費用の比率	1.42%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	2.53%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.19%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、投資先ファンドの費用には、支払利息を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



	2025年6月30日 設定	2026年3月27日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,891
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	320
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	12.2
純資産総額 (百万円)	5,593	21,192

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 投資環境について

（2025. 9. 30 ~ 2026. 3. 27）

2025年第4四半期（10-12月）は、企業の業績回復やインフレの緩和、バンクローンにおけるデフォルト率の低下など、マクロ環境の改善が見られ、こうした市場環境を背景として、「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」（以下、「BCRED」）のトータル・ネット・リターンは1.7%に達しました。また、BCREDは設定来、各四半期で一貫して安定した純資金流入を維持してきており、2025年の資金流入額（グロスベース）は過去最高水準を記録しました。市場ではさまざまな報道が見られるものの、プライベート・クレジットのファンダメンタルズは引き続き底堅さを維持しており、特に投資家の関心は、融資先企業の質に集まっているとブラックストーンはみています。

また、AI（人工知能）はブラックストーンの主要な注力分野の一つであり、同分野において豊富な実績を有しているとブラックストーンは考えています。AIがもたらす影響を注視しつつも、ブラックストーンでは引き続き、同分野における投資に対して高い関心を持っています。現に、BCREDのソフトウェア関連のポートフォリオは、企業価値が平均45億米ドルを超える、大型かつ業績の好調な企業を中心に構成されており、それらの企業における融資実行時のローン・トゥ・バリュー（総資産に対する有利子負債総額の割合。以下、「LTV」。）は37%にとどまっています。これはBCREDの融資よりも弁済順位の低い資本が、約30億米ドル規模で積み上がっていることを意味しています。また足元の半年間でソフトウェア関連の上場銘柄が30%超下落しましたが、そうした企業価値が落ち込む局面においても、BCREDの融資先企業では融資債権に影響が及ばない、十分な自己資本を維持してきました。加えて特筆すべき点として、BCREDのソフトウェア関連の融資先企業では、10%台前半のEBITDA（利払い前・税引き前・減価償却前利益）成長率を記録するなど、引き続き堅調な業績を示している点も挙げられます。BCREDにおける利払い不履行比率（簿価ベース）は2025年12月末時点で0.6%にとどまっており、これはプライベート・クレジットの競合における平均値1.8%（2025年9月末時点）を下回っています。

加えて、流動性管理もBCREDの大きな強みの一つであり、その証左として下記が挙げられます。

- ・ 2025年12月31日時点で、80億米ドルを超える規模の手元流動性資金や35億米ドルの追加借入枠に加え、「市場価格で売買可能な」資産を有しています。
- ・ レバレッジ（ポートフォリオ / 純資産）水準は1.7倍にとどまっており、規制の上限が3倍であることを鑑みると、十分な追加の借入余地を有しています。
- ・ ポートフォリオの中心はプライベート・クレジットであり、2025年の元本償還率は14%にの

ばっています。定期的に発生するローンの償還は、継続的な流動性の源泉であるといえます。

- ・BCRED はまた、プライベート・クレジットの競合ファンドと比較し、最大規模のリボルビング形式の借入枠を有するほか、資産担保型の借入枠を通じて20行を超える銀行と長年にわたる関係を構築、さらに非上場BDC（事業開発会社）の中では、債券発行額が最大となっています。

※ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド：ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド（クラスI）

## ■為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が高まり、2025年11月半ばにかけて円安が進行しました。2026年1月には、日本の衆議院解散による積極財政推進への思惑などから円安が進行する場面もありましたが、為替介入の前段階とされるレートチェックを日米双方の当局が実施したとの観測を受けて、円高が進行しました。2月は、米国財務長官による強い米ドル政策を支持する発言や、高市首相が日銀の利上げに難色を示したとの報道などを受けて、円安となりました。当作成期末にかけても、中東情勢の緊迫化でリスク回避姿勢が強まり、幅広い通貨に対して米ドルが買われる中、原油価格の急騰によって日本の貿易収支悪化の思惑が強まったことでリスク回避の円買いは限定的となり、円安となりました。

## ■前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

引き続き、「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」および「ダイワ・マネー・マザーファンド」に投資し、「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」への投資割合を高位に維持します。

### ■ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド

2025年後半に向けて、プライベート・クレジットは依然として魅力的であるとブラックストーンでは考えています。足元の市場が不安定な局面で、バンクローンは大きな影響を受けた一方、BCREDは投資家のみなさまに対して堅調なパフォーマンスを提供してきました。またバンクローンの案件が66%減少した中、プライベート・クレジット市場は依然として資金を提供し、借り手企

業にとっても安定した資金調達手段であることを改めて示しています。今後、金利に対する見通しがより明確となり、また規制環境の追い風を背景として、M&A（合併・買収）案件の回復が期待されます。2025年第2四半期（4－6月）では、グローバルで直接融資案件が2024年第4四半期（10－12月）と比較して約1.5倍に増加し、BXCIの投資パイプラインも引き続き大幅に増加しています。またBCREDは、100億米ドルを超える手元流動性（借入可能額）を有する一方、レバレッジ比率は0.68倍に抑えるなど、強固な財務基盤を有しており、これにより投資の好機を捉えることが可能であると考えられます。このような市場環境下においては、長期的な投資のための資本と厳格な融資基準を有することが強みとなると期待されます。

これまでBCREDでは、基準金利を約6%上回る分配を提供しており、これはバンクローンより約1.75%高い水準です。BCREDでは今後も、安定した純資産価値（NAV）を維持するとともに、ブラックストーンの強みを活かし、投資家のみなさまに長期的な価値をご提供することに注力していく方針です。

#### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2025. 9. 30 ~ 2026. 3. 27)

#### ■当ファンド

当ファンドは、「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」および「ダイワ・マネー・マザーファンド」に投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通じて、「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」への投資割合を高位に維持しました。

#### ■ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド

BCREDは、機関投資家が求める基準にも合致する、長期的なプライベート・クレジット戦略への投資機会を提供することを目的として設定されました。過去5年間にわたり、その良好なリスク調整後リターンおよび安定したインカムを通じて、その目標を着実に達成してきたとブラックストーンでは考えており、運用においては、特に下記の3つを重視しています。

- ・魅力的なインカム水準：BCREDの配当利回り（年率換算）は9.7%に達し、これはバンクローンを2%超上回る水準です。
- ・保守的なポートフォリオの構築：ポートフォリオに占める優先担保付融資の割合は95%に達し、融資実行時における、融資先企業の平均LTVは42%にとどまっています。加えて、過去

を見ても景気に左右されにくいセクターにおける、特に大型企業への融資に注力しており、融資先企業の平均 EBITDA は2.64億米ドルにのぼります。これは、プライベート・クレジット市場の平均と比較すると、2.5倍を超える規模となっています。

- ・ プライベート・クレジットへの注力：ポートフォリオにおけるプライベート・クレジットの割合は、非上場の競合ファンドの平均が79%であるのに対し、BCRED では93%を占めています。プライベート・クレジットは過去、バンクローンと比較して約2%上回る利回りを創出しています。

BCRED のポートフォリオは、ブラックストーンの厳格な投資方針を体現していると言えます。融資先企業全体の収益は、過去1年間で10%を超える成長を遂げており、これはプライベート・クレジット市場の平均と比較すると2倍の水準です。また、金利低下を受けて、インタレスト・カバレッジ・レシオは、2024年第1四半期の1.6倍から、足元の2025年第4四半期では2.1倍へと改善しています。

こうした方針に加え、運用効率の高さやブラックストーンの広範な投資プラットフォームに下支えされ、BCRED はさまざまな市場環境においても、安定したパフォーマンスを発揮することが可能であると考えられます。

### ■ **ダイワ・マネー・マザーファンド**

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。また、第4期は分配方針通り、収益分配を行いませんでした。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
	2025年9月30日 ～2025年10月27日	2025年10月28日 ～2025年11月27日	2025年11月28日 ～2025年12月29日	2025年12月30日 ～2026年1月27日	2026年1月28日 ～2026年2月27日	2026年2月28日 ～2026年3月27日
当期分配金(税込み) (円)	—	60	65	65	65	65
対基準価額比率 (%)	—	0.55	0.59	0.60	0.60	0.59
当期の収益 (円)	—	60	65	65	65	65
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	683	876	879	880	888	913

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

### 収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
(a) 経費控除後の配当等収益	75.46円	✓ 71.58円	✓ 61.38円	✓ 66.24円	✓ 72.47円	✓ 77.21円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	212.15	181.99	✓ 6.47	0.00	0.00	13.30
(c) 収益調整金	169.18	227.76	315.34	345.86	373.39	394.66
(d) 分配準備積立金	226.24	455.28	561.29	533.63	507.34	493.55
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	683.05	936.63	944.50	945.74	953.21	978.74
(f) 分配金	0.00	60.00	65.00	65.00	65.00	65.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	683.05	876.63	879.50	880.74	888.21	913.74

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

引き続き、「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」および「ダイワ・マネー・マザーファンド」に投資し、「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」への投資割合を高位に維持します。

### ■ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド

プライベート・クレジットは、資産形成の中核を担う、魅力的な資産クラスであるとブラックストーンは考えています。現に、BCRED のトータル・ネット・リターンは、設定来で9.9%に達し、バンクローンやその他上場債券を3.5%上回る水準です。また過去20年間において、プライベート・クレジットは、バンクローンの約2倍のリターンを実現してきました。

BCRED の設定から5年が経過する中で、ブラックストーンでは、これまでの実績を高く評価するとともに、今後の展開に対しても前向きに考えています。また2026年に向けて、安定した超過収益を基盤として、リスク調整後で魅力的な水準のリターンを提供することを最優先事項と位置付けています。加えて、投資が活発化し、また米国経済が底堅く推移する中で、厳格な運用体制と規模の大きさを誇る投資運用会社にとって、さらなる投資の好機が到来するとブラックストーンでは見込んでいます。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。

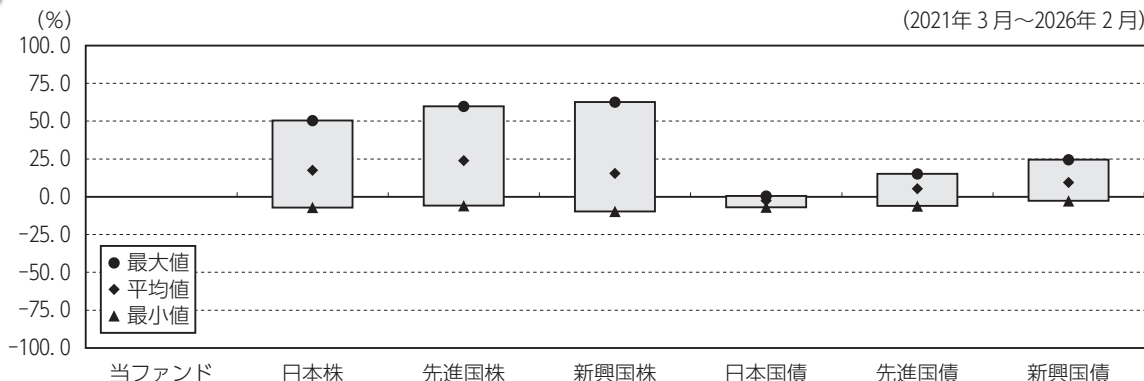


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（プライベート・クレジット）	
信託期間	2025年6月30日～2035年6月27日	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. 米国デラウェア州籍の法定信託「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド（クラスI）」（以下「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」といいます。）の投資証券（米ドル建） ロ. ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネー・マザーファンド	本邦通貨表示の公社債
当ファンドの運用方法	①主として、ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンドの投資証券への投資を通じて、主に米国企業に直接融資をするプライベート・クレジット投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。 ②当ファンドは、ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンドとマザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンドへの投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
マザーファンドの運用方法	①わが国の公社債を中心に安定運用を行ないます。 ②邦貨建資産の組入れにあたっては、取得時に第二位（A - 2 格相当）以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。また、当初設定日から第4計算期末までは、収益の分配は行ないません。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	—	50.5	59.8	62.7	0.6	15.3	24.5
平均値	—	17.5	23.9	15.5	△2.5	5.3	9.5
最小値	—	△7.1	△5.8	△9.7	△6.9	△6.1	△2.7

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる商標または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる商標または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html] ●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



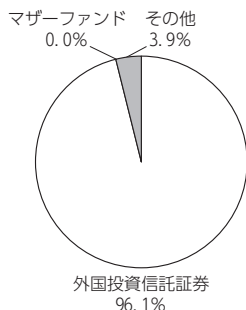
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

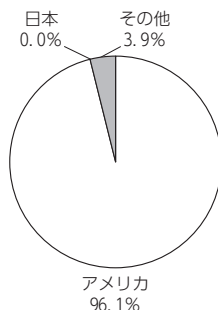
### 組入ファンド等

	比率
ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド	96.1%
ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0
その他	3.9

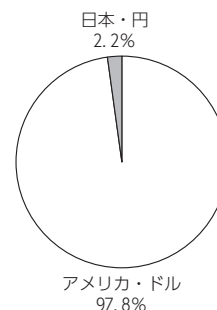
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注1) 上記データは2026年3月27日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

\*同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

## 純資産等

項目	第4期末	第5期末	第6期末	第7期末	第8期末	第9期末
	2025年10月27日	2025年11月27日	2025年12月29日	2026年1月27日	2026年2月27日	2026年3月27日
純資産総額	13,735,843,235円	15,784,424,092円	18,251,874,584円	18,983,414,642円	20,068,965,236円	21,192,478,524円
受益権総口数	12,868,969,633口	14,524,771,616口	16,790,932,969口	17,751,412,848口	18,655,853,838口	19,459,551,418口
1万口当り基準価額	10,674円	10,867円	10,870円	10,694円	10,757円	10,891円

\*当作成期間（第4期～第9期）中における追加設定元本額は8,431,687,725円、同解約元本額は58,861,339円です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## 組入上位ファンドの概要

### ◆ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド

(作成対象期間 2024年1月1日～2024年12月31日)

※直近で入手可能な Financial Statements 作成期間です。

#### ■ 1口当り評価額の推移

ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド (クラスI) の決算日 (2024年12月31日) が組入開始前のため、評価額のデータを取得しておりません。

#### ■ 1口当り費用の明細

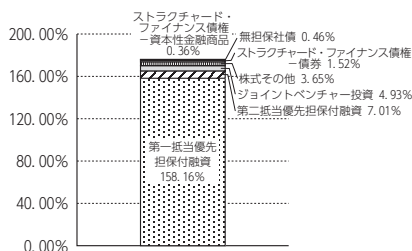
当ファンドの単位口数当りの費用のデータは取得できないため、記載しておりません。

#### ■ 組入上位銘柄

融資先企業名	比率
IRI Group Holdings Inc	4.14%
Guidehouse, Inc.	3.20
Inovalon Holdings, Inc.	3.13
Magnesium BorrowerCo, Inc.	3.09
Medallia, Inc.	2.61
Cambium Learning Group, Inc.	2.42
Shelf Bidco Ltd	2.41
Zendesk Inc	2.40
Mantech International CP	2.31
Unified Women's Healthcare LP	2.27
Portfolio Company	603社

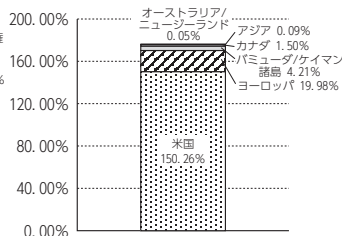
(注) すべての投資 (ジョイントベンチャー投資を除く) 案件の公正価値の純資産に対する比率です。同一融資先で複数の案件がある場合があります。

#### ■ 資産別配分



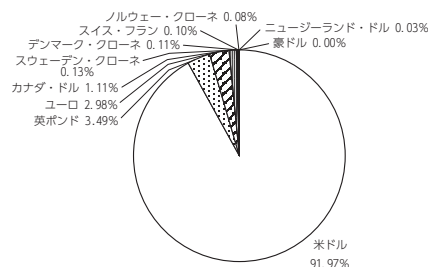
(注) 比率は純資産に対する比率です。

#### ■ 国別配分



(注) 比率は純資産に対する比率です。

#### ■ 通貨別配分



(注) 比率はポートフォリオに対する比率です。

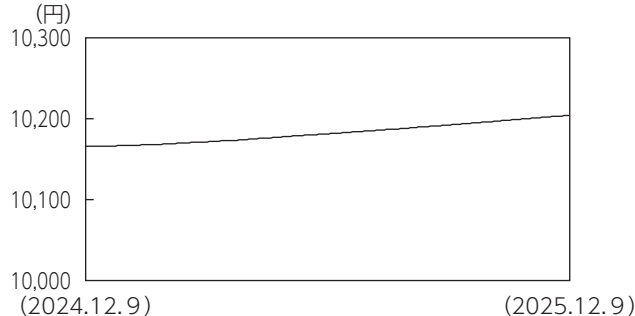
\* 組入上位銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、作成対象期間末時点のデータです。

\* 組入上位銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、「ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド」の運用会社等からの情報提供をもとに作成したものであり、運用報告書 (全体版) の情報とは異なる場合があります。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

◆**ダイワ・マネー・マザーファンド**（作成対象期間 2024年12月10日～2025年12月9日）

■**基準価額の推移**



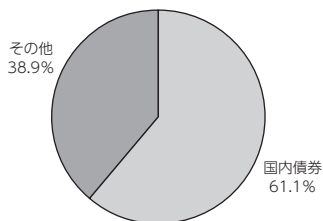
■**1万口当りの費用の明細**

項目	金額
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用	-
合計	-

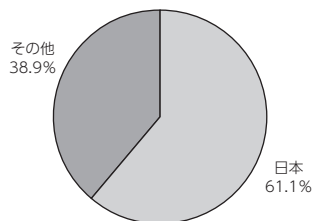
■**組入上位銘柄**

銘柄名	比率
1344国庫短期証券 2026/2/24	47.0%
1343国庫短期証券 2026/2/16	14.1
組入銘柄数	2銘柄

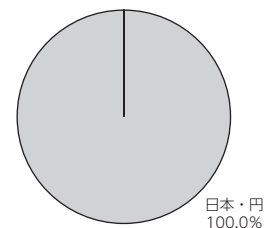
■**資産別配分**



■**国別配分**



■**通貨別配分**



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。